

英語学習 もっと楽しくなる予感

崇城大の英語学習施設「シルク」で談笑するジョン・ローベリー・センター長（右）と学生ら

熊本地震で被災し、再建中だった崇城大の英語学習施設「SILC」（シルク、熊本市西区）が、4月からリニューアルオープンする。館内では英語での会話が原則など「学内留学」をコンセプトにした同施設。新たに外国人講師らと交流できるカフェを設けるなど、さらに楽しく英語が学べそうだ。

崇城大 専用施設「SILC」再建

「話す」「聞く」機会増やす

2010年に開設。英米など出身の講師19人が全学部の1、2年生らを指導していたが、被災直後の一昨年4月から閉鎖されていた。再建された新しいシルクは鉄骨4階建ての延べ床面積約2千平方メートル。ガラス張りの洗練された外観となった。

2階中央の交流スペースには、学生のレベルに応じた英語の本などが並ぶ。さらにカードゲームや海外の映画など楽し

みながら学べる教材がそろそろ。

2、3、4階にある計七つの教室では、合わせて200人が学ぶことができる。専用アプリで動画や音声で英語を学ぶタブレット端末を、一人一人が使えるように200台そろえたという。

1階に新設したカフェは、40人がゆったり座れてケーキや軽食などを楽しめる。工学部1年の野崎奏哉さん(19)は「英



語は苦手だけど、施設がおしゃれだし、英語を学ぶ意欲が増した」とうれしそうだった。

センター長のジョン・ローベリー教授

は「英語教育に理想的な施設が完成した。学生に『話す』『聞く』といった『使える英語』を身に付けさせたい」と表情を引き締めた。
(隅川俊彦)

崇城大の英語学習施設「シルク」の外観



多目的室では学習用のDVDや音声教材などが使える



1階にある学生や講師らが交流できるカフェ